台湾産ヒオドシチョウとシータテハ

張　保　信
台湾省桃園県楊梅鎮中山路63巷8号之1

Nymphalis xanthomelas formosana MATSUMURA and *Polygonia c-album asakurai* NAKAHARA in Formosa

BAW-SING CHANG

Nymphalis xanthomelas formosana MATSUMURA ヒオドシチョウ

1．成　　虫

台湾北部より中南部の山地帯に分布するが，北部山地では4月下旬を中心に発生する．個体数も多く，路傍に吸水に来たり汚物に集まる．2月下旬より観察できる成虫は越冬個体で，5月上旬まで新旧個体の混飛がみられる．6月頃には成虫は姿を消しそのまま越年するが，どういうところでどのように越年するのか今のところ未知である．

2．幼虫と蛹

1972年3月28日，桃園県復興郷栄華でタイワンケヤキ *Zelkova formosana* の葉上より終令幼虫を1頭採集，3月31日に前蛹となったが脱皮不能のため死亡した．4月7日に同一場所で終令幼虫を3頭採集したが4月11日に1頭，4月13日に2頭が蛹化した．前蛹期は約45時間．この蛹は4月21日に1頭，4月22日に2頭が羽化した．蛹期は約10日間．

幼虫の習性としておもしろいことは食草をはげしく振動するとコロリと落下する．この習性が原因しているためか，しばしば群をはなれた幼虫や蛹を見ることができる．

終令幼虫の体長は45～48 mm，棘状突起の数は前方から0，4，4；6，6，6，6，6，6，7，7，2，2の計62本で日本産亜種とことなり第5，6腹節背線上の棘状突起を欠く．棘状突起は亜背線上のものが最も発達している．背線上のものは分枝しない．体節全面に細い汚黄色毛をまばらに持つ．体は黒色．背線の左右は黄白色の大小不均一な斑点で縁取られる．第1腹節より第7腹節の気門下線の突起基部はオレンジ色，気門は黒色，その周囲は黄色で縁取られる．胸脚は黒色，腹脚はオレンジ色．

蛹化はこのんで梢の径 1 mm 前後の小枝で行なわれるが時には葉裏の葉脈上で蛹化することもある．一般に幼虫および蛹期を通じて集団生活をすることが常態である．1972年4月23日，桃園県復興郷巴稜(1,200 m)での観察例では，樹高4 m 程度のタイワンエノキ *Celtis formosana* の梢に数多くの蛹，終令幼虫が数集団にわかれて認められ，食害はひどく数個所の梢は食べつくされていた．一つの集団では21蛹をかぞえることができた．蛹はわずかの刺激ではげしく左右に運動を続ける．蛹の色彩は，全体に白粉状物質をかぶった赤褐色．体長27 mm 前後 (Fig. 1).

Fig. 1. *Nymphalis xanthomelas formosana* MATSUMURA ヒオドシチョウ蛹（左：腹面，中：側面，右：背面).

Polygonia c-album asakurai NAKAHARA シータテハ

1．成　　虫

台湾全島の山地帯に分布し，南部ではやや高地帯，

北部では 500 m 前後の低山地帯にまで分布する．1972年4月16日，桃園県復興郷巴稜（600 m）で得た蛹は4月19日羽化した．4月16日には多数の卵，および各ステージの幼虫を採集しているので，越冬成虫は2月下旬には産卵を開始し，4月中旬の卵や幼虫は第2化のものと見なすことができよう．以後各月に新らしい個体が見られ10月まで成虫を見ることができる．成虫は吸水したり汚物に集まるほか好んで吸蜜する．

2．卵

食草のタイワンケヤキは桃園県復興郷山地帯に多く，随所に見受けられる．産卵位置は赤い小さな折れた枝や切株などからふき出た新芽の葉表の鋸歯縁先端，まれに托葉および新芽のやわらかい枝である．産卵と幼虫の摂食に使われる部分は常にこのやわらかい新芽の部分のみである．

シータテハ卵の縦隆起条

縦隆起条数	卵　数
9	4
10	8
11	3

卵の概形はビール樽形，側面を縦走する隆起条は9～11条，色彩は淡緑色，径 0.7 mm，高さ 0.7 mm 程度．

Fig. 2. *Polygonia c-album asakurai* NAKAHARA
シータテハ蛹
（左：腹面，中：側面，右：背面）．

3．幼　虫

初令幼虫の体形はほぼ円筒状，各体節にいぼ状の突起を持ち，その突起には長毛を生ずる．亜背線上に白色粗大な肉錐を持ち，中，後胸および第1，3，5腹節の背面は乳白色，他の部分は茶褐色．2令から棘状突起が形成されるが，その先端に黒色長毛を生ずる．また中，後胸および第1，3，5腹節背面の棘状突起は黄色，他は茶褐色．3令以後の幼虫の背線，亜背線とその棘状突起，各体節後部の2横紋，第1腹節をのぞく他の気門下線とその棘状突起は鮮黄色，気門をくまどる線は乳白色．各令幼虫は脱皮直後は全身黄色，約30分後に茶褐色となりだんだんと黒ずむ．

全幼虫期を通じて葉裏生活をし，食草の新芽，若葉や若い茎のみを食べ，摂食後もその位置に静止しくの字形になる．

4．蛹

茶褐色から黒褐色まで種々の段階がある．第1，2腹節にある突起は銀色に光る (Fig. 2)．

5．発育日数

発育に要する日数は温度に左右されるが，一例として1972年4月16日に産卵されたものの飼育経過を示すと，卵期4日間，各令期3日間，前蛹期1日間，蛹期7日間で，産卵されてから羽化するまでに要した日数は27日で，5月13日に羽化している．

終りに日頃から御指導いただいている九州大学の白水 隆教授に深い感謝の意を表したい．

参　考　文　献

白水　隆・原　章 (1960)　原色日本蝶類幼虫大図鑑 I. 142頁，保育社，大阪．
白水　隆 (1960)　原色台湾蝶類大図鑑．481頁，保育社，大阪．